



トゲアリ, 加東市上久米やしろの森公園, 2019年6月10日.

採集場所: 加東市上久米 (やしろの森公園), 遊歩道の木製手すりの上, 2019年7月23日

撮影場所: 同上, 2019年6月10日

○参考文献

吉田浩史・八木剛, 2016. 神戸市の注目すべき双翅目および膜翅目の記録. きべりはむし 38(2): 21-25  
環境省, 2010. 改訂レッドリスト付属説明資料 昆虫類: 306. 環境省自然環境局野生生物課

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

宝塚市におけるフタテンカメムシの採集例

宇野宏樹

フタテンカメムシ *Laprius gastricus* は小楯板の両端に小さな白点があるカメムシである. 本種は海岸に生えたイネ科植物の根元や, シバ草原に生息することが知られており (岡山県, 2009; 島根県, 2014), 一般に個体数の少ない希少種とされている (岡山県, 2009). 兵庫県内でもあまり多いものではないのか, 県内の記録は見つけられなかった. 筆者は宝塚市で本種を採集しているので報告する.

2exs., 兵庫県宝塚市蔵人, 23. VII. 2017

2exs., 兵庫県宝塚市蔵人, 31. VII. 2019

4exs. (写真), 兵庫県宝塚市蔵人, 5. VIII. 2019, 筆者採集保管

すべて夜間に灯火に飛来していたところを採集した個体である. 採集地付近にはゆずり葉台緑地公園と逆瀬川が存在するが, 公園内および河川敷には小規模な草地があり, おそらくそこで発生したものと思われる. 本公園にはチビサクラコガネが多く見られるが, この種がフ



フタテンカメムシ, 宝塚市蔵人, 2019年8月5日.

タテンカメムシと同じくシバ草原を住処としていることは興味深い. 末筆ながら, 文章を見ていただいた田中雅之氏 (尼崎市) にこの場を借りて厚くお礼申し上げる.

○参考文献

岡山県版レッドデータブック, 2009. 昆虫類. <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/sizen/reddatabook/pdf/a177.pdf>  
改訂しまねレッドデータブック, 2014. 昆虫類. <https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/nature/shizen/yasei/red-data/kaiteishimaneRDB2014animal.data/doubutu.pdf>  
宝塚市生態系レッドデータブック, 2012. [http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/025/676/seitaikei\\_rdb.pdf](http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/025/676/seitaikei_rdb.pdf)  
安永智秀, 山下泉, 川澤哲夫, 高井幹夫, 川村満, 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 全国農村教育協会

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)

キマダラカメムシの吸汁観察 2例

久保弘幸

キマダラカメムシは外来の大型カメムシで, 筆者宅の周辺では2012年頃から目立ち始めた種であるが, 近年は身近に見る最も普通種となっている. 本種はさまざまな植物をホストとするが, 筆者は偶然の機会に, 本種の幼虫および成虫が植物以外から吸汁する状況を観察したので報告する.

キマダラカメムシが, 一般的にこのような吸汁習性を持つのかどうかについて, 筆者は知識をもたないが, 管見の限り, こうした報告は見当たらない. 事例1・2とともに, 植物からの吸汁とは異なる栄養源であった可能性があり, 本種の生態の一端として興味深い.

【事例 1】

観察場所：加古郡播磨町大中, 2019年7月16日

同地の大中遺跡公園内で、タブノキの葉に付着した白色物質で、キマダラカメムシの成虫が吸汁するのを確認した。その性状から、この白色物は鳥の糞と考えられる。成虫が口吻の先端をさし込んでいたか、触れさせていただけかまでは観察できなかったが、頭部を小刻みに震わせるように動かしている状況から、吸汁と判断した。

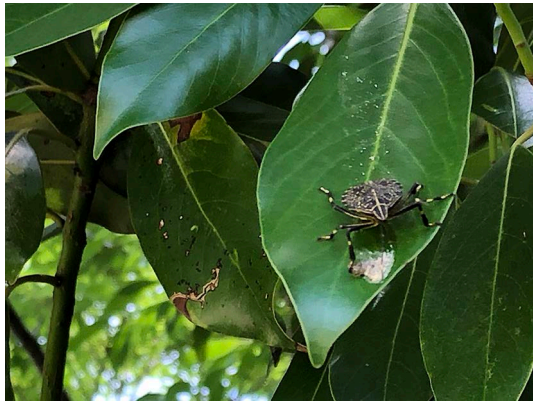


図1 加古郡播磨町大中, 2019年7月16日.

【事例 2】

観察場所：加古郡播磨町大中, 2019年7月24日

同地に営巣したキムネクマバチの巣穴直下に、やや湿った様相の黄色物質が落下しており、そこに本種の幼虫が口吻をさし込んでいる状況を確認した。事例1と同様、頭部を小刻みに震わせており、吸汁と判断した。当時、キムネクマバチの巣内では蜂が営巣活動中であり、黄色物は巣穴直下にあったことから、巣内から落下もしくは排出された花粉などを含んでいた可能性が高いと思われる。



図2 加古郡播磨町大中, 2019年7月24日.

姫路市初記録となるベニトンボを採集

石田真載・石田哲哉

2019年11月4日、兵庫県では3例目、(2016神戸市, 2017淡路島) 姫路市では初記録となる、ベニトンボ *Tritthemis aurora* (Bermeister 1839), 1♂ (図1) を採集したので報告する。



図1 1♂ 兵庫県姫路市飾磨区中島 2019.XI.4.



図2 市川河口の採集場所.

場所は、兵庫県姫路市飾磨区中島2626、浜手緑地近辺の市川河口付近の河川敷 (GPS座標: 34.78823, 134.68609, 図2) で平坦な砂利の上に倒れた枯れ枝に静止した個体を採集した。周囲を探索したが、他の個体は見られず、また国道を隔てた緑地には、繁殖に適した野鳥観察池もあるが、この場所で同日に他のトンボも見られていない事から、この雄は単独で飛来したものと考えられる。

本種は、南方系のトンボでありながら年々北上している事で知られ瀬戸内海の対岸にあたる徳島県では定着が確認されており、姫路市でも沿岸部を中心に定着の有無を調査する必要がある。筆者らは、2019年より「姫路市の水辺のトンボ」という題で夏の自由研究をまとめており、標本は2020年の研究発表に本稿と合わせ添付する予定である。

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市  
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)